

2015年度常設展示室ミニ企画 第Ⅱ期

花開く 明治の版画

2016年1月5日(火)～4月17日(日)

*前期・後期で一部展示替えあり

前期:1月5日(火)～2月16日(火)

後期:2月17日(水)～4月17日(日)

西洋文化が一気に流入することとなった明治期は、江戸時代からつづく錦絵やエッチング制作の技術に加えて、新しくエングレーヴィング(銅版画技法のひとつ)や石版術、木口木版技術、写真術などが伝わったことで、実に多種多様な刷り物(印刷物)が出版されました。2016年・新年からのミニ企画展は、官民で制作されたそれらさまざまな種類の作品を展示し、文明開化によって多様性を帯びることとなった版画の世界を紹介します。

江戸時代に隆盛した浮世絵版画は文明開化以降も盛んに制作出版され、江戸後期に勢力を伸ばした歌川派系を中心とした浮世絵師たちが、新しい版元のもとで明治期の風俗や風景、役者さらに戦争などを新しい画風で表現しました。本展では、小林清親とともに明治の3大浮世絵師と称される歌川派系列の絵師である月岡芳年と豊原国周の作品を出品しています。

錦絵が継続して出版される一方で、江戸時代から制作されてきたエッチングに加え、明治になって西洋から伝えられたエングレーヴィングによる銅版画や石版画が制作され、新しい版画の世界が開拓されます。その最初の拠点となったのが、大蔵省紙幣寮(明治10年[1877]に紙幣局、11年に印刷局と改称)と陸軍という政府機関でした。このうち大蔵省紙幣寮では、紙幣製造と技術者育成のために招聘されたイタリア人彫刻師エドアルド・キヨッソーネとその指導を受けた職人たちによって、日々の修練を目的として、さらにその高度な技術水準を示すために銅版画と石版画が多数制作されました。また陸軍では、日本最初期の洋画家たちによって、地図製作のための画学教育の教材用として石版画が制作され、美術界において直接この版種の技術と表現世界が受容されることになりました。

エングレーヴィングの技術が民間に普及することはありませんでしたが、石版画や銅版画については、明治7年に紙幣や切手、政府発行の証券類など一切を紙幣寮内で制作するという決定によって請負が廃止されると、それまでそれらの原版の制作を請け負っていた松田緑山経営の「玄々堂」と梅村翠山創設の「彫刻会社」という民間の2社があらためて印刷会社を設立し、独自に制作発行を手がけるようになりました。その後明治20年代にはこれらの会社から独立した職人などによって「額絵」と呼ばれる多くの石版画が制作発行されました。今回出品している

亀井至一、竹二郎兄弟は玄々堂で石版画制作に携わった洋画家です。至一制作の日光東照宮の木版画連作は、同時代の錦絵とは異なり、西洋画家ならではの遠近法を使ったリアルな空間表現が見られる作品です。竹二郎による東海道五十三次は、竹二郎が明治10年に描いた油彩画を明治25年(1892)に作品の所蔵者であった大山周蔵が石版画におこした作品で、やはり西洋画家の手による空間表現が見られます。

このほか京都で活動した小山三造の京都風景を描いた石版画や、来日したフランス人画家ジョルジュ・ビゴーのエッチングなどを出品します。3月12日からは特別展として「清親—光線画の向こうに」を開催しますので、清親の作品と比較しながら、近代都市・社会が築かれる明治の文化、風景そして視覚をお楽しみ下さい。

出品リスト

・No.、画家(生没年)、画工*、題名、制作年、技法、サイズ・タテ×ヨコcm、発行所・出版・版元を順に適宜記載。画工は名前の前に画工と表記。

*画工とは、原画を銅版や石版に写し、刷りをおこなう専門家
・前期のみ展示は〔前期〕、後期のみ展示は〔後期〕と表記。表記のない作品は全期展示。

■錦絵

- 1 豊原国周(1835-1900)
見立昼夜廿四時之内 午前十時
明治23(1890)
木版多色 36×24(大判錦絵) 福田熊治郎〔前期〕
- 2 豊原国周(1835-1900)
見立昼夜廿四時之内 午後一時
明治23(1890)
木版多色 36.5×24(大判錦絵) 福田熊治郎〔後期〕



- 3 月岡芳年 (1839-1892)
風俗三十二相 遊歩がしたさう 明治年間妻君之風俗
明治 21 (1888)
木版多色 35.6×24.1 (大判錦絵) 綱島亀吉 [前期]
- 4 月岡芳年 (1839-1892)
風俗三十二相 ねむさう 明治年間娼妓の風俗
明治 21 (1888)
木版多色 35.6×24.2 (大判錦絵) 綱島亀吉 [後期]
- 5 豊原国周 (1835-1900)
梅幸百種之内 篠原国幹
明治 27 (1894)
木版多色 34.7×23 (大判錦絵) 福田熊次郎 [前期]
- 6 豊原国周 (1835-1900)
皇国自漫 初陽因雲閣
明治 17 (1884)
木版多色 35.2×71.1 (大判錦絵三枚続) 福田保 [前期]
- 7 豊原国周 (1835-1900)
梅幸百種之内 英人スペンサー
明治 27 (1894)
木版多色 34.5×23.2 (大判錦絵) 福田熊次郎 [後期]
- 8 豊原国周 (1835-1900)
与衆同楽井上邸内に御観劇
明治 20 (1887)
木版多色 35×70.8 (大判錦絵三枚続) 浅野金之助 [後期]
- 9 月岡芳年 (1839-1892)
鹿児島征討内 隈川官軍賊軍戦
明治 10 (1877)
木版多色 35×70.3 (大判錦絵三枚続) 松村甚兵衛 [前期]
- 10 月岡芳年 (1839-1892)
鹿児島征討記内 熊本城ヨリ諸所戦争図 第弐
明治 10 (1877)
木版多色 35×71.5 (大判錦絵三枚続) 林吉蔵 [後期]

- 12 作者不詳
上野公園夜景
明治 12 (1879)
石版 26.4×36.8 大蔵省印刷局
- 13 大山助一 (1858-1922)
贈正三位廣澤眞臣公
明治 15 (1882)
エンブレイヴィング 24.2×17.7 大蔵省印刷局
- 14 川村清雄 [推定] (1852-1934)
卓上静物
明治 16 (1883)
石版多色 29×37.1 大蔵省印刷局



- 15 エドアルド・キヨッソーネ (1833-1898)
明治天皇御軍装像
明治 26 (1893)
エンブレイヴィングほか 98.5×66 大蔵省印刷局 【寄託】
- 16 五姓田義松 (1855-1915)
歩兵士官及砲兵士官 (陸軍参謀局編輯『佐賀征討戦記』口絵
明治 8 (1875)
石版、手彩色 22.7×15.1 (冊子) 陸軍文庫
- 17 作者不詳
『西洋画式』
明治 9 (1876)
石版 26.4×19.6 (冊子) 陸軍文庫

■政府機関 (大蔵省、陸軍) 発行の版画

- 11 作者不詳
富岳風景
明治 10 (1877)
石版 2色 34.2×48.2 大蔵省紙幣局

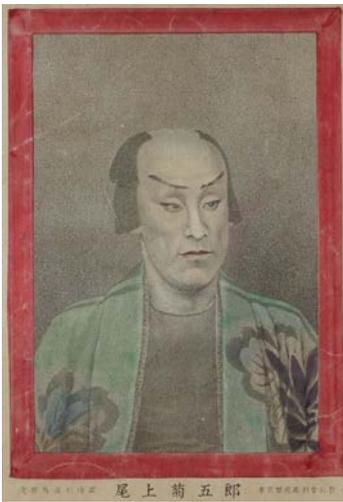
■民間会社発行、個人制作の版画

- 18 内田正雄編著『輿地誌略』修静館
-1 画工・松田緑山 (1837-1903) [々々堂]
「ギゼー」大石塚并ニ「スフィンクス」ノ図 (巻 8)
明治 8 (1875)
エッチング 25.3×18 (冊子)

- 2 画工・亀井至一 (1843-1905) [玄々堂]
加里福尼僧ノ鉢山ニテ水ヲ以テ鉢石ヲ洗フ図 (巻10)
明治10 (1877)
エッチング 25.2×18 (冊子)

- 19 オットマン・スモリック (生没年不詳)
坂東彦三郎
明治8 (1875)
石版、手彩色 24.2×17.2 彫刻会社

- 20 オットマン・スモリック (生没年不詳)
尾上菊五郎
明治8 (1875)
石版、手彩色 24.5×17.3 彫刻会社



- 21 蝮川式胤編著『観古図説』陶器之部 蝮川式胤出版

- 1 画工・亀井至一 (1843-1905) [玄々堂]
乾山作皿 (巻4)
明治10 (1877)
石版、手彩色 27×39 (冊子)
- 2 画工・下国巖之助 (生没年不詳) [玄々堂]
道八作茶碗 (巻5)
明治10 (1877)
石版、手彩色 27×39 (冊子)

- 22 岡田半輔 (生没年不詳)
果实之図
明治14 (1881)
石版 21×37.5 大阪・龍雲舎

- 23 亀井至一 (1843-1905)
(日光名所) 明治13 (1880) 木版多色 松木平吉
- 1 夜叉門之景 13.5×19.6 [前期]
- 2 大社表門之景 13.5×19.8 [前期]
- 3 大猷院殿二王門之景 13.5×19.5 [前期]
- 4 唐門及拝殿本殿之景 13.7×19.5 [前期]

- 5 大社門内神庫前之景 13.6×19.7 [前期]
- 6 大社陽明門之景 13.5×19.5 [後期]
- 7 皇嘉門之景 13.7×19.8 [後期]
- 8 大猷院殿二天門之景 13.5×19.5 [後期]
- 9 大社唐門ヨリ拝殿之景 13.6×19.7 [後期]
- 10 大社表門前之景 13.5×19.7 [後期]



-6

- 24 ジョルジュ・ビゴー (1860-1927)
『O-HA-YO』 明治16 (1883) エッチング
- 1 托鉢僧 19×13.2
- 2 兵隊 18.6×12.6
- 3 小学生たち 19.1×13.3

- 25 ジョルジュ・ビゴー (1860-1927)
『クロッキ・ジャポネ』 明治19 (1886) エッチング
- 1 官吏 18.3×13.3
- 2 [羽根突き] 20.3×30.5

- 26 渡辺幽香 (1856-1942) 画工・松田緑山 [玄々堂]
芸者を訪れた老商人 (『大日本帝国古今風俗 寸陰慢稿』)
明治19 (1886)
石版 29×21 (冊子) 渡辺幽香

- 27 渡辺幽香 (1856-1942)
掛軸をかける若い女性 (『ジャパニーズ・タイプス(日本風俗)』)
明治20 (1887)
エッチング 30×22.5 (冊子) 渡辺幽香

- 28 小山三造 (1859?-1927)
『京都名所画』 明治21~22 (1888~1889)
- 1 祇園祭 石版、手彩色 31.5×21.2 小谷義一
- 2 金閣寺 石版、手彩色 23.6×35 小谷義一
- 3 広沢池 石版、手彩色 16.4×33.9 [小谷義一]

- 29 ヤマモト (不詳) 画工・勝山繁太郎、矢嶋徳三郎
帝国貴顕肖像
明治22 (1889)
石版、手彩色 38.5×30.2 勝山繁太郎、矢嶋徳三郎

30 岡村政子 (1858-1936) 画工・清水市郎
八重垣姫
明治22 (1889)
石版、手彩色 32.9×26 清水市郎

31 画工・荒川藤兵衛
美人化粧之図
明治22 (1889)
石版、手彩色 36.1×26.6 荒川藤兵衛

32 画・山本 (不詳) 画工・有山定次郎
愛嬌鏡
明治22 (1889)
石版、手彩色 29×40 有山定次郎

33 画工・渡辺忠久
四人童児喜遊図
明治24 (1891)
石版、手彩色 27.5×37.5 渡辺忠久

34 画工・有山定次郎
新吉原大門之景
明治24 (1891)
石版、手彩色 26.8×37.5 有山定次郎

35 亀井竹二郎 (1857頃-1879) 画工・大山周蔵
『東海道五十三次之真景』
明治25 (1892)
石版多色 16.2×23.3 大山印刷所

- 1 神奈川駅
- 2 平塚駅 馬入川
- 3 大磯駅 海浜晴景
- 4 箱根駅 湖畔旧関眺望
- 5 赤坂駅



36 浅井忠 (1856-1907)
『従征画稿』
明治28 (1895)
26.5×38.3 (冊子) 春陽堂

- 1 花園に登岸 (第二集) 石版
- 2 土城子の露営 (第四集) 石版

■新聞附録

37 水野孤芳 (1863-1928)
鹿鳴館天長節夜会図ほか (『絵入朝野新聞』附録)
明治21 (1888) 11月4日
木口木版 33.7×19.5 朝野絵入新聞社

38 合田清 (1862-1938) [生巧館]
熊本県下飽田郡高橋町市街震災被害真図 (『東京朝日新聞』附録)
明治22 (1889) 9月1日
木口木版 39.1×32.3 東京朝日新聞社

39 作者不詳
奈良県下十津川地方変災実況之図 (『東京朝日新聞』附録)
明治22 (1889) 9月15日
木口木版 51×36 東京朝日新聞社

40 作者不詳 制作・信陽堂
板垣伯之肖像 (『時事新報』附録)
明治24 (1891) 6月8日
石版 22.5×18 時事新報社

◇ 畦地梅太郎(1902~99)コーナー

芝公園
1927頃 木版多色 21.4×26.2

泉岳寺墓所 (『東京回顧図会』)
1945 木版多色 18×24.3

冬の山男
1955 木版多色 40.1×28.5

山小屋の冬
1980 木版多色 38.9×29

2016年1月5日
発行：町田市立国際版画美術館
〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1
<http://hanga-museum.jp/>